

1. 挨拶

会員の皆様こんにちは。様々な活動で忙しい毎日、あるいは時間に追われない自由な日々を、お楽しみでしょうか。コロナ第7波もピークが過ぎ、感染者数が減少傾向と言われるようになりました。八幡宮の秋のお祭りも規模縮小でしたが行なわれ、制限の無い日常生活が近づいていると実感しています。いよいよ秋の行楽シーズン到来でしょう。私たちシニアの会も対面で「サロン」(10/29(土))が計画できるところまでできました。残念ながら、冬に向かってコロナだけでなくインフルエンザの感染の広がりにも注意喚起されています。だまだ無防備で良いとはいかないですね。高齢者の私たちは特に、**with コロナ**での活動方法、内容を工夫しながら活動を進めて行きましょう。

2. 7月・8月の事業内容と9月・10月の予定

状況 新年度になり、令和4年度の事業計画も総会を経て無事に承認されました。これに伴って、どういう形で事業計画を進めていくか、議論していきます。当面は相談会、拡大相談会、研究施設訪問会、サロン等を中心に進めていきます。

① 事業の実施及び実施予定

定例会（相談会） 7月、8月は予定通り開催

7月 4日 7日 20日 22日

8月 24日 26日

9月 5日 8日 21日

10月 3日 6日 19日 21日

拡大定例会（相談会） 10月29日（土） 10:30～ 上田公民館

企業訪問会の実施 7月13日（水） 産業技術短期大学訪問

6名参加した

サロン開催予定 10月29日（土） 13:00～ 上田公民館

講師 P.O.イノベーション 代表取締役 見木太郎氏

「義肢装具の世界」

会報 7号発行（7月5日に発行）

8号発行（10月1日に発行）

10月 コウサポいわてへの活動報告書（中間）提出

場合によっては事業中止報告書の提出も考えざるを得ない状況

3. 会員紹介

伊澤昌弘さん

シニアの会に参加して特に何もしていない伊澤です。

自分としては、まだ若いと思っていましたが、「後期高齢者」の仲間入りの年齢に達してしまいました。現在は、岩手県職員退職者会の事務局に、原付バイクで県庁に顔を出す毎日を送っており、会員の共済関係の手続きや会報を作る仕事をしています。



地域では自治会の役員を引き受けて10年近くなりますが、町内の皆さんと一緒に、資源回収や国道沿いの花壇に市から譲り受けた「花の苗」を植え、月に一度草取りや秋には、春に掘り起したチューリップの球根を花壇に戻す作業を繰り返しています。

資源回収事業も重要な仕事で、盛岡市が進める「ごみ減量運動」に貢献するために「分別」呼びかけ、年5回の回収事業を町内会で実施しています。しかし、いずれの作業もこの間の「コロナ禍」で、なかなか人が集まらない状況となっており、3年連続で地域全体の夏祭りや、敬老会などの行事も見合わせているところであり、一日も早いコロナの終息を願っています。

4. コラム 『カップ伝説を探る』

みなさんはカップ（河童）についてどのくらい知っているだろうか？カップは日本で生まれた妖怪で、日本全国にその伝説が残されている。その呼び名の「カップ」は「かわ（川）」に「わらわ（童）」の変化形「わっぱ」が複合した「わわわっぱ」が変化したものとされる。そしてその知名度は芥川龍之介の小説「河童」で全国に知られるようになった。そしてかっぱの由来は西日本と東日本とで大まか



【遠野駅のカップ像】

に分かれる。西日本では河伯 信仰（中国黄河の神様）による大陸からの渡来とされるが、東日本では安倍晴明の式神説や、左甚五郎が仕事の補助役として造った人形が変じたものとされる。また河童は、間引きされた子供の遺体が河原にさらされている姿との説もある。江戸時代には間引きは頻繁に行われており、他の子供に間引きを悟られないよう大人が作った嘘とも言われている。またカップ伝説には、人に悪さやいたずらするタイプと人の役に立つタイプがあるようだ。九州地方のカップ伝説では山の治水工を手伝ったという話がある。一方悪さの代表的な事例は尻子玉（人の魂）を抜いて人を殺したりするというものである。このカップ伝説は岩手にも数多く残されていて、そのメッカは遠野物語で有名な遠野郷である。遠野を流れる猿ヶ石川には多くのカップが住んでいたと言われる。実は岩手でのカップ目撃情報は遠野よりも岩泉町の小本川流域の方が多いらしく、一緒に子供と遊んだという事例が多いようだ。カップの容姿は緑色であるのが一般的であるようだが、遠野郷では赤いカップが一般的である。今回はこの遠野

郷の赤いカップ伝説を探るために、遠野を訪問した。いつも感じることだが、なぜか遠野に足を踏み入れた瞬間、異郷の地（隠り世（かくりよ））に来たような気がするのは、筆者だけであろうか？まずはJR遠野駅に来て、駅前の噴水池にあるカップの像に挨拶してから、観光案内所へいき、念のためカップ捕獲許可証（300円）を購入してからいざカップ淵方面へ。常堅寺には観光客用の駐車場がないため、伝承園近くの駐車場に車を止めて、徒歩で5分位常堅寺山門につく。この「常堅寺」にまつわるカ



【常堅寺のカップ狛犬】

ップ伝説は、その昔常堅寺が火事の時、淵に住むカップが火を消してくれたことから、時の住職がカップ狛犬を祀って感謝したと言われている。この寺には今でもカップの狛犬が祀られている。次はカップ淵のはなしである。「小鳥

瀬川（こがらせがわ）の姥子淵（おばこぶち）辺りに新家という家があった。ある日淵へ馬を冷やしに行き、馬曳の子が遊びに行っている間に、カップが出てその馬を水の中に引き込もうとした。しかし馬の力が強く、馬に引きずられて厩の前まで来てしまった。カップは慌てて厩の中に隠れたが、見つかってしまい、村人達の協議の結果、今後村の馬に悪さをしないと約束させられて、



【カップ淵】

無罪放免となった。」という話である。さらにもう一つ「太郎淵」という遠野市指定の遠野遺産に指定されているスポットがある。「この辺りの淵に太郎という名のカップが住んでいて、洗濯等の水仕事をしに来る集落の女達を覗きに来ては、いつも悪さをして困ったという。又この淵の下流に、太郎カップに言いよる女カップが住んでいたと言われている。いまでも太郎淵、女ヶ淵と言いい匹のカップが住むと言われる。」このように遠野のカップ達はちょっとしたいたずら小僧のようである。一方宮古の閉伊川流域には、下流のカップが手紙を頼んで、上流のカップが配達してくれた人の尻子玉を食べてしまうという、怖い話もある。遠野ではカップ捕獲許可証を発行して、1年間カップの捕獲を許可してくれることになって



【太郎淵】

いる。但し捕獲には条件があり、傷つけず生け捕りにすること、捕獲場所はカップ淵に限る、新鮮な野菜を使って捕獲する事などが記載されている。残念ながら今回はカップには会えず、捕獲もできなかったが、遠野の魅力が一杯の訪問であった。遠野にはまだまだ不思議な場所や言い伝えが数多くあるという。おいおい紹介できればと思う次第である。

5. 新たな会員の募集について

新規会員の紹介をお願い致します。会員増は会員の皆様の人脈だよりです。
本会報を使っても構いませんので、お知り合いの方へのお声かけお願いいたします。

連絡先 事務局 志田満

携帯 090-2791-1803 e-mail mitshida.1029@docomonet.jp

6. 編集後記 遠野の猫神社 おトラ様

遠野郷八幡神社境内にある猫神社を知っていますか？かつて遠野地方は養蚕が盛んであり、蚕の天敵である鼠を駆除するため、多くの家で猫を飼っていたようだ。そのためか猫が今でも多くいるらしい。遠野郷八幡神社でもある時一匹の野良猫（トラ猫）が住み着いて、いつしか参詣者の出迎えなどの案内を自発的にするようになった。一宿一飯の義理を果たすためだろうか？神社の方はシャムネコ（社務猫）と呼んでいた。この猫が亡くなった時に、その労をねぎらって猫神社を建立して感謝していると、いつしか猫の神様として広く知られるようになったらしい。実際拝観してみると、猫グッズが数多く置かれていた。猫好きの方は、是非一度は行って拝観してみてもはいかがでしょうか？（志田）



【猫神社】

